

## 第 68 期

# 令和 2 年度 事業報告書

令和 2 年 4 月 1 日から  
令和 3 年 3 月 31 日まで

福島県郡山市駅前一丁目 8 番 16 号

公益財団法人 湯 浅 報 恩 会

## 第 68 期（令和 2 年度）事業報告書

### 1. 事業概況

令和 2 年度は、前年度末、パンデミック宣言が行われた新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）の拡大に、世界中が翻弄された一年となった。

国内では令和 2 年 3 月 27 日に 1 日の新規感染者数が初めて 100 人を超え、新年度に入ってすぐの 4 月 7 日、安倍晋三首相（当時）によって東京、神奈川、埼玉、千葉、大阪、兵庫、福岡の 7 都道府県を対象に新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく「緊急事態宣言」が発出された（4 月 16 日、対象地域を全国に拡大）。宣言の下で幅広い職種に対し休業要請が出され、「人と人との接触機会、8 割削減」などが呼びかけられた結果、新規感染者数が減少し事態は収束したかに見えたが、その後、接待をともなう飲食店など繁華街を中心に 8 月上旬～中旬をピークとする「第 2 波」が発生、第 2 波が「下げ止まり」する中、10 月下旬にたたみかけるように全国で感染者が急増し、「第 3 波」が襲来した。令和 3 年が明けると東京都の 1 日当たり新規感染者数は連日 2,000 人を超えるようになり、1 月 8 日、首都圏の 1 都 3 県を対象に 2 度目の緊急事態宣言が発出された（1 月 14 日、11 都道府県に拡大）。宣言は 3 月 21 日までに解除されたものの、1 回目に比べ人流は減らず、新規感染の多くは感染力の強い変異株によるものとなっていること、ワクチン接種がなかなか進まないことなどから重症者数、死亡者数とも増加の一途をたどりながら令和 3 年度に突入しており、未だ「国難」は去っていない。

新規感染症の長期化が経営に与える影響は業種によって異なるが、インバウンド需要の消失、プロスポーツやエンタメの停滞、移動制限と時短営業・休業の要請が運輸、飲食・観光関連業種に壊滅的な打撃を与え、地方も疲弊している。医療も例外ではなく、各学会から予定手術の延期、里帰り分娩の自粛、健診の延期等の勧告が出される一方で、患者自身の受療行動の変化（受診抑制と、外出自粛による怪我や急病の減少）があり、上半期を中心に、全国で患者数はかつてないほど落ち込んだ。影響は特に急性期病院で大きく、当法人でも寿泉堂総合病院の患者数が入院・外来とも低迷し赤字基調での経営を強いられたが、期末になってようやく患者数が回復し、国から新型コロナウイルス感染患者対応病床確保にともなう補償、種々の感染対策等に対する補助金を受領したことによって、最終損益では黒字を計上することができた。

このように令和 2 年度は、当法人でも COVID-19 への対応と対策に追われたが、県中医療圏の第三次救急医療を担う中核病院で大規模クラスターが発生し患者受入を停止した際には、他病院と共に多くの入院患者・紹介患者を受け入れ地域救急医療の維持・確保に力を尽くしたことを含め、すべての職員が日々懸命に努力し、職員から一人の感染者も出すことなく診療機能を維持し地域医療に貢献できたことは、特筆すべきことと思われる。

## 2. 部門別事業報告

### (1) 法人本部

「郡山駅前一丁目第二地区第一種市街地再開発事業」については、令和2年8月に大手住宅デベロッパーと事業協力協定書を締結し、同時に郡山市へ事業再開の報告書を提出した。

また、令和3年度中の事業着手に向けて、設計内容の検討や測量及び建物調査他事前の調査を行い、工事費見積等、事業計画の変更申請のための作業を行った。令和3年2月には郡山市から都市計画変更の決定を受け、3月末に令和3年度分の補助金内示があった。

財務の面では、「コロナ禍」で厳しい収支状況が続く中、令和2年6月に独立行政法人福祉医療機構より長期運転資金を導入。さらに市中金融機関による年度単位での長期運転資金導入の検討調整を行った。この厳しい収支状況を法人内で共有し、収支改善に向けた指標として、月次の速報値に基づく収支状況の把握と発信に努めた。

また、償却資産の整理徹底による経費削減に努めるとともに、多岐にわたる COVID-19 関連の補助金の把握と経理上の整理を行った。

人事関係では、COVID-19 に関して、職員の行動指針を策定して周知するとともに、労働安全面を考慮した就業サポートを行った。さらに家族への感染拡大防止の観点から、直接 COVID-19 患者に対応した職員に対し臨時住居確保の支援を行った。

人事・賃金制度については、チャレンジカードを用いた従来の人事考課制度から、部署・チームの目標達成を重視した BSC（バランスド・スコアカード）を用いた新人事考課制度の試行を行い、その結果を踏まえ本施行に向けた検討を行った。

### (2) 寿泉堂総合病院

本年度は、COVID-19 拡大の影響により患者の受療行動が大きく変容し、年度当初から厳しい病院運営を強いられた。地域医療支援病院としての診療機能を維持しながら、新型インフルエンザ対策特別措置法の協力病院として4月から中等症までの COVID-19 患者用2床と疑い患者用2床の運用を開始し（令和2年度受入総数31人）、最大の目標である単年度決算黒字と地域貢献の両立に向けて取り組んだ1年であった。

今年度は麻酔科医師の増員が適って3人体制となり、医療機能評価で強く求められた質の高い安全な麻酔が可能になったことを特筆したい。一方で、常勤医が不在となったリウマチ膠原病内科や形成外科が外来診療のみとなり、救急医療の要でもある脳神経外科の若手医師派遣が棚上げされ医師1人体制となったことによる10月以降の二次救急当番辞退、呼吸器内科の診療縮小など、入院および外来診療における負の要因も小さくなかった。

COVID-19 の影響による入院・外来患者数の減少は予想以上に大きく、上述の負の要因も加わった結果、COVID-19 診療協力に対する空床補償を含む多額の補助金があったものの、医業収支の黒字化は達成できなかった。

#### 【入院患者数】

延べ入院患者数は74,897人で前年度より13%・10,229人減少した。平均在院日数は前年より0.1日短縮した10.4日であった。

#### 【外来患者数】

外来患者総数は120,007人（一日平均406.8人）で前年より10.7%減少した。初診紹介患者総数も6,410人と前年より1,015名減少したが、紹介率は、地域医療支援病院の要件60%をクリアできる75.2%であった。

#### 【救急搬送件数】

受入れ実績は前年より486名少ない2,257件で、救急入院患者も216名減少したが、地域医療体制加算の施設基準2,000件はクリアできた。搬送受入れ数の低下は、COVID-19拡大により地域の救急出動件数が減った影響が大きく（郡山市は前年度比8.6%減）、10月から脳神経外科救急当番を辞退したことも一部関与した。

#### 【診療単価】

COVID-19による影響で入院患者数は減少したものの、診療内容の充実が図られ、入院診療単価は前年度比9.1%プラスの63,801円と高い数値となった。同様に、外来診療単価も前年度比11%プラスの16,616円であった。

#### 【医業収支】

医業収益は6,919百万円で前年度より229百万円減少し、予算値から6.6%下振れした。材料費・設備関係費等の医業費用は前年比35百万円・0.5%減にとどまり、300百万円を越える補助金を充てても、一般正味財産増減額は85百万円の赤字となった。償却前利益は243百万円であり、前年を2百万円上回った。

#### 【医療の質】

前年度受審した病院機能評価で認定の妨げとなった「全身麻酔の並列禁止」という難題が、麻酔科常勤医師3名体制が確保できたことで克服でき、従来より安全な手術管理と柔軟なスケジュール調整が可能になった。これまで婦人科で積極的に取り組んできた腹腔鏡下手術例数が東北地方でトップクラスに位置し、腹部外科でも腹腔鏡手術が増加しており、低侵襲手術の増加を支える麻酔科の充実は非常に大きい。

整形外科では少人数で膨大な数の手術をこなしているなか、股関節置換手術にナビゲーションシステムを導入したことによって質の高い手術と順調な回復、入院期間の短縮が実現できるようになっている。

循環器内科、消化器内科では後期研修医が派遣されて常勤医が3人となり、疾患対応能力が増大して収益改善につながっている。これからも福島県立医科大学の関連講座と連携強化に努めたい。

懸案であった周術期口腔管理を行うケアチームが立ち上がり、今後、術後の栄養改善や合併症の減少効果が期待される。

#### 【COVID-19の対策】

「新型コロナウイルス対策会議」を設置し、情報の共有と課題について検討し、議事録をネット配信することにより院内周知を図った。また、議事録や関連情報をいつでも

確認できるようイントラネット内のグループウェアにアイコンを作成し、院内感染防止の一助とした。

福島県、郡山市保健所の要請を受けて当初から発熱外来の協力機関として COVID-19 診療に協力したことにより、結果として検査体制の充実（PCR 検査の委託契約、PCR 検査機器・抗原定量検査機器の導入）が図られ、院内感染対策の強化が可能となった。また、新型インフルエンザ対策特別措置法の協力病院として 4 月から中等症までの COVID-19 患者および疑い患者用各 2 床の運用を 10 階病棟で開始した。呼吸器内科と病棟スタッフの理解協力なくして社会的責任を全うできなかったことを強調しておきたい。

院内感染を防止するため、院内出入口を制限して入場者の検温・問診体制を整備した。外来発熱患者を分けて診察できる部屋の確保や改装工事により救急診療に支障をきたさない環境を確保した。入院・手術予定患者については全診療科の協力を得て事前の PCR 検査を徹底し、10 階の受入れ専用病床には生体モニター・陰圧装置・監視カメラを設置して、スタッフの負担軽減と感染防止を図った。ほかに、外来患者の電話再診の導入（年間 907 件）や入院患者との面会禁止にともなうタブレット面会サービス提供（年間 181 件）を行った。

#### 【顧客の視点から】

患者満足度調査における肯定的評価は外来 74.9%、入院 89.3%と高く、寿泉堂ポストに寄せられた苦情や要望の数は減少した。なかでも、一昨年から始めた駐車料金無料化によって、駐車場に関する要望・苦情は激減した。

人事労務課にあっては、「働き方改革」に沿って、年休付与日数の就業規則・内規見直しや年休取得 5 日の達成に向けて今年度も引き続き努力し、一定の効果が得られた。また、医師のタイムカード打刻が定着し、課題となっていた医師の出退勤管理が容易となり、時間外労働時間の把握準備が整った。

#### 【BSC と人事考課の連動を目指した取り組み】

BSC の運用を各部署に浸透させ、目標達成実績と人事考課の連動をターゲットとする試行期間とした。各部門の理解が着実に進んでおり、令和 3 年度から本施行できる準備が整った。

### (3) 寿泉堂香久山病院

令和 2 年度は、COVID-19 感染拡大防止対策を講じたなかでのスタートとなった。正面玄関へのサーモカメラを設置し、検温や面会禁止など様々な対策を実施し、COVID-19 の院内への持ち込み・発生をくい止めることができた。

面会を禁止したことにより家族が会えない不安を軽減しようと、患者の顔写真付きの手紙を家族宛に郵送した。家族から喜ばれたが、やはり直接会えない不安は大きいと思われたため、タブレット面会を 6 月にスタートさせた。直接は会えないものの顔を見て声も聞けることにより、家族に大きな安心感を与えることができた。

診療体制は、5 月に金眞治医師、11 月に三崎麻子医師が着任したことにより、医師数

は1名の増員となった。三崎医師の着任により、寿泉堂香久山病院で以前から構想していた在宅医療の実施が可能となり、いずみ訪問看護ステーション、郡山南部地域包括支援センター、寿泉堂香久山居宅介護支援事業所と協力し、訪問診療を開始する運びとなった。今後、訪問診療の件数が、3ヶ月で30件以上を継続することができれば、地域包括ケア入院管理料2から1へ入院料のレベルアップが可能となり、増収が期待できる。

また、患者サービスの一環として入院セットを9月より導入した。入院時に必要なタオルやオムツなどを、患者のニーズに合わせて1日単位でレンタルすることができ、入院セットを利用することで、患者家族の負担を軽減するとともに介護職の業務負担軽減にも繋がった。

患者数は、COVID-19による影響もあり、入院・外来ともに患者数および医業収益は前年実績・予算値を若干下回る結果となった。1日当たり入院患者数は前年比-3.5名、予算比では-0.5名となり、収入も前年比で若干の減少となった。各病院が、COVID-19の影響で患者数獲得に苦戦しているなかで、予算値に近い患者数および収入（補助金を含む）を確保できたことは評価できると思われる。引き続き、病院機能の充実及び医療の質の向上に取り組み、患者数を維持し予算達成を目指したい。

環境活動の面では、「第2回こおりやまSDGsアワード」を受賞した。寿泉堂香久山病院の長年にわたる環境負荷低減活動や、地域交流活動が評価されたものである。寿泉堂香久山病院は地域に寄り添う病院を目指し、平成13年の環境ISO取得以降、様々な取り組みを続けてきた。今回の受賞は、寿泉堂香久山病院の活動が評価されたことであり、私たち職員全員の大きな励みとなった。コロナ禍により対外活動は大きく制限されている状況下ではあるが、IT等を利用した活動を志向することにより新たな展開を企画し、今後もなお一層研鑽を重ね、受賞に恥じない活動を推進していく。

今後も、各医療機関や介護事業者と密接に連携し、十分な情報の共有を行いながら、医療・介護と幅広く患者の受け入れ相談のできる病院として、寿泉堂香久山病院の特性を十分に活かし地域医療・地域福祉に貢献していきたい。

#### (4) 寿泉堂クリニック

##### (透析センター)

透析監視装置は49台すべてが集中管理方式による透析液供給体制となったが、本年度は4台を最新の透析装置に更新した。これにより46台がオンラインHDF（血液ろ過透析）対応装置となったことで、血液ろ過透析実施率が平均86.1%となり、小分子蛋白質などの除去効率が向上し水分バランスの良い透析を提供できた。

また、COVID-19対策として発熱患者等へPCR検査を積極的に実施し、隔離透析による感染拡大防止対策を徹底して行っている。

延べ患者数は19,703名と前年比+1,088名・5.8%増加し、診療単価は診療報酬改定による技術料の引き下げにより-575円・1.8%減少となったが、延患者数が増加したことで、収入総額は前年度より+24百万円・3.9%増加の630百万円となった。

##### (健診センター)

今年度は COVID-19 の影響を大きく受け、受診控えや郡山市健診が 2 ヶ月遅れの 7 月 20 日からの開始になったことなどにより、4 月～6 月の健診者延数が前年比 -31.5% と大変厳しいスタートとなった。しかしながら、近隣施設では健診事業を一時休止するところもあった中、対策を取りながら休止せずに健診を継続することができた。

また、保健衛生活動の推進にかかる特定保健指導を積極的に行い、今年度は 136 名に実施できた。人間ドック健診者への当日結果説明は 100% 実施し、うち保健指導は 11.8% の受診者に行い、生活習慣病の予防・改善に取り組んだ。

7 月以降の挽回により健診者延数が年間では -2.2% (-367 名) まで回復できたことにより、収入総額は前年比 -2.8 百万円・0.7% 減少の総額 387 百万円と、ほぼ昨年並みを確保できた。

#### (クリニック総括)

COVID-19 の影響により健診部門は前半苦戦したが、後半は盛り返すことができた。透析センターは、郡山市内の透析ベッド増に伴い患者獲得が激戦区となっている中、無料送迎（ルート送迎）が浸透しはじめたことで新規患者の獲得に繋がり、実患者数は年度当初より 8 名増加することができた。

寿泉堂クリニック全体の医業収益額は 1,017 百万円、対前年比 +2.2%・21 百万円の増収となり、透析装置オーバーホール等修繕関係費の削減に努めた結果、医業費用額が対前年比 +5 百万円に留められたことで、減価償却前利益は 322 百万円（前年比 +6.5%・20 百万円）の増益となり、医業収益対利益率は 31.7% を達成することができた。

#### (5) いずみ訪問看護ステーション

「利用者の意思を尊重し、24 時間安心して利用できる訪問看護サービスが提供できる」を事業目標とし、特に中重度者のケアや看取りに取り組んできた。

今年度の年間総訪問数は 3,546 件で前年比 283 件減少した。内訳は介護保険 2,764 件、前年比 95 件の増加、医療保険 782 件、前年比 188 件の減少だった。新規件数は 38 件で前年比 10 件の増加だった。総訪問数の減少については中重度者の増加により看取りケアが増え、自宅療養が短期間で終了するケースが多かったことが考えられる。そして新規紹介は増加したものの、COVID-19 疑い等の理由によりサービスの一時中止や短期入所の延長などがあったことも影響している。

診療報酬上の主な加算では、看護体制強化加算 I（介護）は年間を通して算定することができた。ターミナルケア実績は 23 件で医療保険 14 件（癌末期）介護保険 9 件（非癌）、そのうち加算算定は 18 件で前年比 10 件の増加だった。

4 月より芳賀小原田地区の定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービス事業所と契約しサービス開始となり、12 月からは南部地区にサービス提供エリアが拡大になった。家族説明会からサービス開始に至るまでの経過に関わることができ、他施設や他職種との連携になるため戸惑うこともあるが、新規紹介にも繋がっており今後も関係性が維持できるよう努力したい。

満足度調査の結果は前年同様「良い」以上の評価は 90% を占め、スタッフに対する感

謝と応援の言葉を記してくださり、ありがたく感じた。アンケート結果は利用者宅にも配布し、サービスについての改善点や提案については部署内会議で検討した。介護予防や緊急対応、ACP 実践方法等について重要性を感じており、学びを継続する必要がある。

入退院支援等の連携についてはコロナ感染症対策により予定の 30%、地域活動(会議、医療機器装着者の災害想定訓練)は zoom を活用しながらも 50%に留まった。必要事項については利用者や家族の許可を得て関係機関と連携し、退院後自宅療養する利用者の不利益にならないよう配慮した。各マニュアルや利用者個票(緊急連絡、避難場所)の整備を実施し標準化したことで、本年 2 月 13 日、3 月 20 日に発生した福島県沖地震では発生後 1 時間内に対象者の安否確認を行うことができた。

外部研修はほとんどが中止となったが、その反面オンラインでの研修が増えたことにより参加がしやすくなり、参加数 31 回/年と例年同様の数値となった。院内オンデマンド研修を含め、部署内研修は予定通り実施した。

今年度は COVID-19 が日常生活を脅かす状況となり、平常時からの準備について改めてその重要性を感じる機会となった。

#### (6) 寿泉堂香久山居宅介護支援事業所

特定事業所としての責任と期待に応えられるよう法令遵守と適正管理に努め、質の評価と特定事業所集中減算に注意しながら減算回避ができた。

ケアプラン作成件数は 1,481 件で前年比 45 件減少したが、4 月と 3 月の人事異動で一時的に新規利用者の受け入れが困難になったことが要因の 1 つと考えられる。4 月に異動になった新人ケアマネも利用者の担当ができるようになり、積極的に新規受入れを行った。新規相談件数は 54 件で前年度より 14 件増えたが、居宅介護支援の契約にはならず入院や施設入所等の支援や相談のみで終了になることもあった。

介護度別では要介護 1 が一番多く、全体の 38%、要介護 2 は 25%、要介護 3 は 18%、要介護 4 は 13%、要介護 5 は 6%だった。介護度が高くなるにつれて、人的・物的・経済的環境等が整わないと在宅では介護を続けることが難しく、施設入所などにより終了となることも多かった。その一方、コロナ禍で在宅看取りを希望されることもあり、支援期間が短く終了になることもあった。看取り期の支援では特に医療と介護の連携に力を入れ、本人や家族の意向を確認しながら在宅生活ができるよう心がけた。終了者数は 55 件で前年より 12 件増えた。終了理由は主に施設入所や死亡終了であり、亡くなった方のうち 1 名は COVID-19 の感染者であった。

認定調査件数は 3 件で、前年比 60 件の減少であった。これは COVID-19 拡大防止対策として認定期間を 1 年間自動延長できたためである。

実習生の受け入れは、看護協会からの訪問看護人材育成研修を 2 名、福島県介護支援専門員実務研修を 2 名受け入れた。ポラリス保健看護学院 3 年次学生の実習は、COVID-19 の拡大防止のため中止になった。

平成 30 年度から実施している他法人の居宅介護支援事業所との合同事例検討会は今年度も太田総合病院介護保険事業所と実施した。今年度は COVID-19 拡大防止のため

zoom を活用した。その他に居宅協 7 ブロック研修、地域包括支援センター主任ケアマネ部会の合同研修も実施した。事例検討に参加することで新たな気づきがあり、大変有意義なものになり今後の支援に活かしていきたい。

地域ケア圏域会議は COVID-19 の拡大予防のため開催されなかった。自立支援型地域ケア会議に事例提供し、様々な専門職からの助言を受けその後の支援に活かすことができた。

COVID-19 の拡大にともない感染対策を徹底し、訪問時の滞在時間にも配慮しながら利用者や家族の変化を見落とさないように関係機関とも連携し対応した。今後も感染対策を徹底しながら職員の健康状態にも注意し、利用者支援をしていきたい。

#### (7) 郡山南部地域包括支援センター

担当地区の高齢者数は令和 2 年 1 月 1 日現在で 6,192 人、高齢化率は 25.3%、前年比で高齢者数は 26 人増加、高齢化率は 0.4%増加した。

相談件数は 10,245 件で、前年より 603 件増加し、相談内容は介護保険や医療保険に関することが全体の 66%を占めた。その両方に共通しているのが認知症に関することで、医療機関や認知症初期集中支援チームをはじめ、複数の機関との連携が必要になるケースが増えている。医療の中断や金銭管理の問題、セルフネグレクト、虐待などの複雑化しているケースも多く、身寄りのないケースや生活困窮状態のケースも増えており支援が長期化する傾向がある。支援を必要としている高齢者が埋もれている状況があり、相談があった時には既に要介護状態や支援困難となっているケースが散見された。

要支援者・事業対象者のケアプラン作成件数は 2,802 件で、前年に比べて 104 件増加した。介護保険サービスだけでなく、ボランティアやその他の社会資源等のインフォーマルサービスも活用し支援を行なった。

高齢者実態把握事業の「おたっしや長寿アンケート（旧基本チェックリスト）」未回収者の安否確認は 345 件で、民生委員等の協力もあり 100%の安否確認ができた。

地域包括ケアシステムの深化、推進を目指し行政や医療、介護、福祉、地域関係機関との連携を図り、障害福祉分野との連携や認知症施策の推進に取り組んだ。地域活動については COVID-19 拡大予防の観点から例年より活動が少なくなった。

通いの場を利用している住民を対象に、運動器機能向上などの介護予防の啓発や COVID-19 予防の普及を行った。また、橘地区の通いの場創設に向けて勉強会を開催した。

地域ケア会議は、個別会議を 4 回開催したが、圏域会議は COVID-19 の影響を考慮し開催できなかった。個別会議では、一人暮らしで認知症のある困難事例や身寄りがない方の施設入所や住宅支援などのケース検討を行い、行政を含め保健、医療、福祉などの複数の機関の専門職で課題解決に取り組み、介護支援専門員への支援を行った。

エリア内にある事業所の介護支援専門員同士の交流やケアマネジメントの資質向上を図り、地域包括ケアシステムの深化・推進を目指すことを目的に交流会を年 4 回計画し 2 回実施、2 回は COVID-19 の影響で中止した。

生活支援体制整備事業として支部社協単位で第2層協議体を設置する取り組みをしており、生活支援コーディネーターと協働を継続している。すでに活動している久留米支部、名倉支部は活動の後方支援をしている。橘地区では設置に向けた地区説明会や勉強会に参加し後方支援をしている。

地域包括支援センター協議会の部会・委員会活動や研修会等にも積極的に参加し、情報共有や自己研鑽に取り組んだ。今後も高齢者や介護支援専門員の相談窓口としての機能を発揮し、地域包括ケアの一端を担っていきたい。

### 3. 収 支 報 告

今期は法人全体で前年度に引き続き黒字を確保することを最重点課題に掲げ、各部門で年度当初より増収及び費用削減対策に意欲的に取り組む計画であったが、事業計画策定時には予想できなかった COVID-19 拡大の影響による受療行動の変化などがあり、年度当初から厳しい運営を強いられた。それでも、各部門とも COVID-19 拡大防止対策を講じながら患者の受入に努めた結果、患者数は年度後半から徐々に回復傾向となった。また、COVID-19 関連の補助金は、設備投資に対するものも含めると総額で 410 百万円が交付されたため、今期の最終損益における収支改善に大きく寄与した。

2. に述べた各部門の事業経過の結果、法人全体での令和2年度医業収益総額は 9,953 百万円となり、前年度に対して 284 百万円・2.8%減少したが、損益計算に反映される COVID-19 関連等の受取補助金 349 百万円を加えた経常収益は 10,399 百万円となり、前年に対し 10 百万円・0.1%の減少に留まった。これに対する経常費用総額は 10,302 百万円で、前年比-74 百万円・0.7%の減少となった。この結果、本年度の医業活動による当期経常増減額（経常損益）は 98 百万円の黒字となったが、経常外費用として過去の債務に係るやや大きな費用の拠出があったため、経常外増減額を合算した当期一般正味財産増減額（最終損益）は 25 百万円の黒字となった。

### 4. 役員会報告

本年度の理事会・評議員会等の開催状況は、次の通りである。

#### (1) 理 事 会

##### ① 定 時（みなし決議）

みなし開催日 令和2年6月20日

議決事項

- ・ 第1号議案 平成31年度事業報告・決算報告について
- ・ 第2号議案 会計監査人の報酬について
- ・ 第3号議案 定時評議員会の招集について

報告事項

- ・ 郡山駅前1丁目第2地区市街地再開発事業の状況報告について

- ・ 関連施設の現況報告について
- ② 定 時（みなし決議）
- みなし開催日 令和3年3月27日
- 議決事項
- ・ 第1号議案 令和3年度事業計画・収支予算案について
  - ・ 第2号議案 令和3年度借入限度額設定について
  - ・ 第3号議案 特別管理職の選任及び解任について
- 報告事項
- ・ 令和2年度決算見通しについて
  - ・ 郡山駅前1丁目第2地区市街地再開発事業の状況報告について
- (2) 評 議 員 会
- ① 定 時（みなし決議）
- みなし開催日 令和2年6月29日
- 議決事項
- ・ 第1号議案 平成31年度事業報告・決算報告について
- 報告事項
- ・ 郡山駅前1丁目第2地区市街地再開発事業の状況報告について
  - ・ 関連施設の現況報告について
- (3) 業 務 監 査 ・ 会 計 監 査 に 関 す る 会 議
- ① 平成31年度第67期会計監査人監査報告
- 開催日 令和2年6月5日
- 内容 決算報告書に関する監査結果報告
- ② 平成31年度第67期監事監査
- 開催日 令和2年6月5日
- 内容 業務監査及び会計監査
- ③ 監査法人と理事者等とのディスカッション
- 開催日 令和2年10月5日
- 内容 監査法人の監査計画についての説明
- ④ 監査法人と理事者等とのディスカッション
- 開催日 令和3年3月23日
- 内容 監査法人の決算に向けての検討事項の把握
- (4) その他
- 常勤理事出席による財団運営会議を毎月第1週に開催した。

## 5. 診 療 報 告

- (1) 令和2年度の患者数等は、次の通りである。

## (患者数)

	寿泉堂総合病院		寿泉堂香久山病院		寿泉堂クリニック		合 計	
	名	前年比	名	前年比	名	前年比	名	前年比
外来患者総数	120,007	89.3%	9,587	83.5%	19,877	105.2%	149,471	90.7%
一日平均	406.8	89.0%	32.5	83.3%	63.5	105.3%	502.8	90.4%
新患者数	11,213	77.0%	286	63.8%	162	63.5%	11,661	76.4%
入院患者総数	74,897	88.0%	61,144	87.0%			136,041	87.5%
一日平均	205.2	88.2%	167.5	87.2%			372.7	87.8%
新入院患者数	6,559	88.7%	568	102.5%			7,127	89.7%
退院患者数	6,570	88.8%	576	105.9%			7,146	90.0%
病 床 数	305	100.0%	199	100.0%			504	100.0%

## (寿泉堂香久山病院介護医療院) 令和1年10月1日開設

	令和2年度	平成31年度	増減	前年比
入所者総数	14,924名	7,134名	7,790名	209.2%
一日平均	40.9名	39.0名	1.9名	104.9%
新入所者数	25名	25名	0名	100.0%
退所者数	24名	16名	8名	150.0%
療養床数	51床	51床	0床	100.0%

## (救急患者数及び救急車による受入件数)

## 寿泉堂総合病院

	令和2年度	平成31年度	増減	前年比
入院	1,260名	1,570名	△310名	80.3%
外来	4,367名	5,904名	△1,537名	74.0%
救急車搬送件数	2,257件	2,743件	△486件	82.3%

## (人間ドック及び各種健診受診者数)

## 寿泉堂クリニック

健診内容	令和2年度	平成31年度	前年比
日本病院会指定による二日人間ドック	52名	64名	81.3%
日本病院会指定による一日人間ドック	3,558名	3,581名	99.4%
全国健康保険協会による生活習慣病予防健診	3,236名	3,300名	98.1%
一般事業所健診	7,554名	7,283名	103.7%
郡山市住民健診	1,600名	2,102名	76.1%
個人健診	241名	278名	86.7%
計	16,241名	16,608名	97.8%

特定保健指導	136名	177名	76.8%
保健栄養指導	457名	455名	100.4%

(いずみ訪問看護ステーション)

	令和 2 年度	平成 31 年度	前年比
利用者延人数	595 名	638 名	93.3%
訪問延件数	3,546 回	3,829 回	92.6%
新規利用者数	38 名	28 名	135.7%

(寿泉堂香久山居宅介護支援事業所)

	令和 2 年度	平成 31 年度	前年比
ケアプラン作成件数	1,481 件	1,516 件	97.7%
認定調査件数	3 件	63 件	4.8%

(郡山南部指定介護予防支援事業所)

	令和 2 年度	平成 31 年度	前年比
介護予防プラン作成件数	2,802 件	2,698 件	103.9%

(2) 本年度導入した主な医療機器及びその他の機器は、次の通りである。

(寿泉堂総合病院)

高周波手術装置	医用画像システム
全自動免疫発光測定装置	自動遺伝子解析装置
自動洗浄乾燥装置	超音波画像診断装置
移動型 X 線撮影装置	全身麻酔器
移動型 X 線透視装置	紫外線照射システム 2 台
電気手術装置	メディカル HD レコーダー
排気式薬品保管庫	歯科用ユニット
病理診断業務支援システム	胆道ファイバースコープ
携帯用屈折度検査装置	読影用ワークステーション
医用テレメータ	個人用透析装置 2 台
保育器	血漿融解装置 2 台
検診台	分娩監視装置
簡易陰圧装置 2 台	挿管用ビデオ喉頭鏡ガイドスコープ

(寿泉堂香久山病院)

超音波診断装置	簡易陰圧装置
安全キャビネット	オーダーリングシステム
移動式リフト	空気清浄機 14 台
サーマルカメラ	サーマルカメラハンディタイプ

(寿泉堂クリニック)

透析用監視装置 4 台	無散瞳眼底カメラ
透析用チェア 2 台	超音波画像診断装置
内視鏡ビデオシステムセンター	医用画像システム

(いずみ訪問看護ステーション)

介護システム

(寿泉堂香久山居宅介護支援事業所)

介護システム

(郡山南部地域包括支援センター)

介護システム

## 6. 公益事業報告

### (1) 救急医療活動

- ① 救急医療に対し、郡山地区救急病院協議会、郡山地区第二次病院協議会の運営に協力した。
- ② 救急告示病院として、全日救急患者受け入れに対応した。さらに、郡山地区第二次病院群輪番制により毎週木曜日・金曜日と第2日曜日・第4日曜日を担当し、積極的に地域医療に協力した。担当日における時間外の取扱患者数は、次の通りである。

	令和2年度	平成31年度	増減	前年比
入院(担当日)	875名	1,085名	△210名	80.6%
入院(年度内総人数)	1,260名	1,570名	△310名	80.3%
外来(担当日)	3,902名	5,412名	△1,510名	72.1%
外来(年度内総人数)	4,367名	5,904名	△1,537名	74.0%
救急車搬送件数(担当日)	1,246件	1,521件	△275件	81.9%
救急車搬送件数(年度内総件数)	2,257件	2,743件	△486件	82.3%

- ③ 郡山市休日・夜間急病センターの二次病院として、毎週木曜日・金曜日と第2日曜日・第4日曜日を担当し、病床の確保等を通じ全面的に協力した。

### (2) 育英事業

令和2年度の奨学生は、次の通りである。

福島県立医科大学看護学部	2名
東北福祉大学健康科学部保健看護学科	1名
東京家政大学健康科学部看護学科	1名
国際医療福祉大学保健医療学部看護学科	1名
帝京平成大学助産学科・看護学科	2名
仙台青葉学院短期大学看護科	1名
太田看護専門学校	7名
松村看護専門学校	1名
白河厚生総合病院附属高等看護学院	1名
福島看護専門学校	4名
郡山看護専門学校	2名

### (3) 公衆衛生協力事業等

- ① 開放型病院として、38床の開放型病床を地域の登録医に開放した。  
(利用率 41.3%)
- ② 所得に左右されることのない医療を提供するため、生活困窮者等を対象とした

医療費減免を実施した。(実施件数 60 件)

- ③ 郡山市内小中学校 6 校の健康診断、妊婦健診、乳幼児並びに 3 才児健診を実施した。
- ④ 産業医として市内各事業所の産業安全衛生活動を実施した。
  - ・労働者の健康管理等を目的とした産業医活動を実施  
(5 事業所 従業員総数 1,397 名)
  - ・健康相談・健康セミナーを事業所にて開催 (3 事業所 年間 28 回)
  - ・保健師による健康相談・保健指導を事業所にて開催  
(1 事業所 年間 12 回)
- ⑤ 厚生労働省からの要請による院内感染対策サーベイランス事業に協力した。
- ⑥ エイズ治療拠点病院として、サーベイランス調査、HIV 感染患者の診療に協力した。
- ⑦ 周産期医療協力病院として、福島県周産期医療システムに協力した。
- ⑧ 出産を控えた患者と家族を対象として、毎週土曜日に予定していた「パパママクラス」は、COVID-19 の影響により年間を通し中止となった。
- ⑨ 献血事業協力のため、福島県赤十字血液センターでの採血協力のほか採血バスへの医師派遣を毎月 1 回ないし 2 回実施した。
- ⑩ 社会福祉法人いずみ福祉会への診療協力を実施した。
- ⑪ 郡山市の委託により地域包括支援センターを運営した。

(郡山南部地域包括支援センター運営実績)

	令和 2 年度	平成 31 年度	前年比
相談業務	10,245 件	9,642 名	106.3%
おたっしや長寿アンケート未回収者の実態把握	345 件	399 件	86.5%
介護予防教室	3 回	11 回	27.3%
認知症サポーター養成講座	3 回	3 回	100%
認知症施策関連事業	— 回	1 回	—
生活支援体制整備事業	7 回	7 回	100%
地域ケア会議	4 回	11 回	36.4%
ケアマネ交流会	1 回	1 回	100%

- ⑫ 地域住民を対象とする健康教室等は、COVID-19 の影響により、開催中止となった。
- ⑬ 地域医療支援病院としての、地域の医師、医療機関を対象とする医学講座並びに症例懇話会については、COVID-19 の影響により開催中止となった。
- ⑭ 地域医療支援病院として、地域医療従事者に向けた研修会を Web 開催した。

(寿泉堂総合病院)

令和 2 年 6 月 17 日	栄養管理科研修会 「その衛生管理大丈夫ですか?～食中毒から身を守るために～」	42 施設参加
7 月 1 日	リハビリテーション技術科研修会 「実はすごいラジオ体操～正しいやり方で運動効果を最大に～」	29 施設参加

7月 29日	薬剤科研修会 「お薬の飲ませ方」	14 施設参加
8月 6日	放射線技術科研修会 「CT 造影検査」	3 施設参加
9月 9日	皮膚・排泄ケア認定看護師による研修会 「褥瘡予防について～高齢者の皮膚を知り、予防的スキンケアを実践しよう～」	23 施設参加
9月 24日	緩和ケア認定看護師による研修会 「地域における高齢者の看取りケア～“良い看取り”“良い死”について考えてみませんか？」	19 施設参加
10月 1日	認知症認定看護師による研修会 「行動・心理状況のアセスメントケア～認知症による落ち着きがない・攻撃性がある・気分が落ち込む～」	20 施設参加
10月 14日	公認心理師による研修会 「ストレスとの上手なつきあい方」	14 施設参加
11月 18日	脳卒中リハビリテーション認定看護師による研修会 「脳卒中を発症しやすい時期が来る。～脳卒中を予防するためには？～」	16 施設参加
12月 17日	救急蘇生講習会 「救急蘇生と AED の使い方」	19 施設参加
令和 3 年 1月 20日	感染対策研修会 「麻しん・風しんー基本・動向・対策ー」	24 施設参加
2月 17日	泌尿器科医師による研修会 「尿路感染症の診断と治療について」	21 施設参加

⑮ 地域の健康増進、各種行事等へのスタッフ派遣に協力した。

令和 2 年 7月 14日	郡山市地域包括支援センター初任者研修 講師	主任ケアマネ 1 名
7月 15日	看護力向上支援事業 講師 (8月 19日) 標準予防策「手指衛生について」 今泉眼科病院	感染管理認定看護師 1 名
8月 3日	公衆衛生事業まちの保健室	保健師 1 名
8月 26日	福島県介護支援専門員再研修・更新研修 講師 (11月 16日、17日)	主任ケアマネ 1 名
9月 12日	福島県介護支援専門員専門研修 I 講師	主任ケアマネ 1 名
9月 15日	福島県主任介護支援専門員更新研修 講師 (10月 21日)	主任ケアマネ 1 名
9月 16日	看護力向上支援事業 講師 (10月 21日) 標準予防策「個人防護具について」今泉眼科病院	感染管理認定看護師 1 名
9月 26日	福島県介護支援専門員実務研修 講師 (令和 3 年 1月 13日、19日、20日、25日)	主任ケアマネ 1 名
10月 13日	令和 2 年度訪問看護人材養成研修会 講師	訪問看護師 1 名

10月17日	福島県介護支援専門員専門研修Ⅱ 講師 (12月1日、3日、8日、14日、16日)	主任ケアマネ1名
11月11日	看護力向上支援事業 講師 「インフルエンザ環境整備について」今泉眼科病院	感染管理認定看護師1名
令和3年3月1日	日本財団在宅看護新型コロナウイルス対策プロジェクト個人防護具説明 講師	訪問看護師1名
3月8日	医療安全に関する研修会 講師 郡山看護専門学校	統括リスクマネージャー1名

- ⑩ ボランティア育成運営委員会により、ボランティア育成講座及び実習を開催し、ボランティアの積極的な受け入れを予定したが、COVID-19の影響により中止となった。

(ボランティア育成運営員会)

寿泉堂総合病院 10回

寿泉堂香久山病院 2回

- ⑪ 地域のコミュニティスペースとして、寿泉堂総合病院の会議室を開放した。

令和2年9月6日	第2回福島・宮城呼吸療法セミナー 一般社団法人福島県臨床工学技士会
10月4日	福島県臨床工学技士会総会 (Web開催) 一般社団法人福島県臨床工学技士会
令和3年1月30日	第6回人工呼吸器セミナー (Web開催) 一般社団法人福島県臨床工学技士会

#### (4) 研究研修事業

臨床研修医、医学実習生及びその他の実習生を受け入れた。また、関連大学に研究費の助成を実施した。

##### ① 研究助成・事業援助の状況

(ア) 関連大学へ研究助成	27件	57,700,000円
(イ) 関連各種学会へ事業援助	2件	220,000円
(ウ) 地域への事業援助	10件	254,000円

##### ② 臨床研修医の受入状況

(ア) 基幹型臨床研修病院 (寿泉堂総合病院)

マッチングによる2年間の研修 (医科) 1年次4名 2年次6名

マッチングによる1年間の研修 (歯科) 1名

(イ) 福島県立医科大学の協力型臨床研修病院 (寿泉堂総合病院)

研修医 1年次1名

研修期間 令和2年4月1日～令和3年3月31日

研修科目 大学等の協力による1年間の研修

(ウ) 一般財団法人脳神経疾患研究所附属総合南東北病院の協力型臨床研修病院

(寿泉堂総合病院)

研修医 1年次1名

研修期間 令和2年9月28日～10月25日

研修科目 産婦人科

③ 看護学生等の受入状況

	学校名	人数
看護学生	福島県立医科大学看護学部	49名
	福島県立総合衛生学院	12名
	郡山看護専門学校	84名
	医療創生大学看護学部	34名
	ポラリス保健看護学院	10名
	国際医療看護福祉大学校	2名
薬学生	奥羽大学	2名
	東北医科薬科大学	2名
リハビリテーション科学生	仙台リハビリテーション専門学校	1名
	群馬パース大学	2名
臨床工学士学生	国際医療看護福祉大学校	4名
栄養士学生	郡山女子大学	5名
視能訓練士学生	仙台医健・スポーツ&こども専門学校	2名
事務関係学生	国際医療福祉大学	2名
	仙台医療福祉専門学校	1名
訪問看護人材育成研修	福島県看護協会	2名
福島県介護支援専門員実務研修	福島県社会福祉協議会	2名

④ 看護インターンシップ受入状況

実習内容	人数
福島県立医科大学看護学部	2名
群馬パース大学	1名
医療創生大学	2名
公立岩瀬病院附属高等看護学校	2名

⑤ 消防署救急医療実習受入状況 COVID-19の影響により中止

⑥ 一般の実習受入状況 COVID-19の影響により中止

⑦ 研究事業

- (ア) 学会発表演題数 (診療部) 8題
- (イ) 剖検数 2体
- (ウ) 治験薬施用承認件数 2件

⑧ 研修事業

(ア) 研究研修のための学会等への派遣

(延人数)

	本部	寿泉堂	香久山	クリニック	いずみ訪問	居宅介護	地域包括
診療部	—	42名	—	1名	—	—	—
看護部	—	27名	39名	—	—	—	—
診療支援部	—	5名	—	—	—	—	—
事務部	—	5名	2名	—	—	—	—
その他	—	0名	—	—	—	—	—
合計	—	79名	41名	1名	—	—	—

(Web 研修)

	本部	寿泉堂	香久山	クリニック	いずみ訪問	居宅介護	地域包括
診療部	—	52名	17名	21名	—	—	—
看護部	—	16名	2名	8名	31名	—	—
診療支援部	—	24名	2名	2名	—	—	—
事務部	—	1名	—	15名	—	—	—
その他	—	1名	—	—	—	—	—
合計	—	94名	21名	46名	31名	—	—

(イ) 教育研修等

(法人)

令和2年 11月 21日	新入職員フォローアップ研修会	30名参加
令和3年 1月 25日	第28回寿泉堂病院学会 (～2月5日 Web 配信)	739名参加

(寿泉堂総合病院)

令和2年 9月 18日	保険診療に関する研修会 「保険診療と薬剤関連事項」	234名参加
令和3年 2月 10日	令和2年度クリニカルパス検討会 「新たな取り組みと今後の飛躍に向けて」 (～27日 Web 配信)	160名参加
3月 6日	MRIの安全管理に関する研修会 (～31日 Web 配信)	
3月 10日	保険診療に関する研修会 「放射線検査に関連した診療報酬について」 (～27日 Web 配信)	148名参加

(ウ) 海外研修 COVID-19の影響により中止

## 7. 設備改修工事等報告

令和2年度に実施した主な工事は、次の通りである。

(寿泉堂総合病院)

- ・救急処置室改装工事
- ・簡易陰圧装置設置工事
- ・吸引供給設備修繕工事
- ・放射線科空調設備増設工事

- ・動力盤増設工事
  - ・標本採取室改装工事
- (寿泉堂香久山病院)
- ・西館空調熱源更新工事
  - ・透析排水処理槽設置工事
  - ・院内 WiFi 環境整備工事

(寿泉堂クリニック)

- ・検査室スパイロ用排気ファン設置工事
- ・発電機用バッテリー交換工事

## 8. 労使関係報告

- (1) 令和2年5月11日開催の労使協議会において、令和2年度の給与改定について妥結した。  
昇給率 1.99%                      昇給額 3,813 円 (標準5号の定期昇給)
- (2) 令和2年5月11日開催の労使協議会において、令和2年度の上期賞与の支給率について妥結した。  
(基本給+調整手当 4,000 円) × (基準賞与 1.5ヶ月+業績賞与 0.9ヶ月)
- (3) 令和2年11月25日開催の労使協議会において、令和2年度下期賞与の支給率について妥結した。  
(基本給+調整手当 4,000 円) × (基準賞与 2.0ヶ月+業績賞与 0.4ヶ月)
- (4) 令和3年4月1日からの休日・時間外労働(36協定)に関する労使協定を行った。
- (5) 令和3年4月に年次有給休暇の付与日の統一及び時間単位年次有給休暇制度を行う労使協定を行った。
- (6) 労使双方の代表によって構成する「給与委員会」を定例開催した。

## 9. 庶務事項報告

- (1) 令和3年3月31日現在の職員数は次の通りである。 (単位:人)

	医師		看護師・准看護師		医療技術員		事務職員		その他		計	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
本部			1				14				15	0
寿泉堂	58	79	232	23	98	2	78	2	43		509	106
香久山	7	12	85	3	46		16		67		221	15
クリニック	5	9	33	3	11		13	2	4		66	14
いづみ訪問			5	1							5	1
包括支援			5				1				6	0
居宅介護			3				2		1		6	0
計	70	100	364	30	155	2	124	4	115	0	828	136

※休職者除く

- (2) EY 新日本有限責任監査法人による法定監査を受けた。
- (3) 当法人及び寿泉堂松南病院を退職した元職員による寿泉堂病院 OB 会「寿友会」の運営に協力した。6 月に開催を予定していた「寿友会総会」は、COVID-19 拡大の状況に鑑み中止となった。
- (4) 従業員の健康確保、労働環境確立と労働能力の高揚を目的に、衛生委員会（昭和 55 年 1 月制定）を 12 回開催した。
- (5) 医療安全の確保を目的とした医療安全管理委員会、医療安全対策委員会及び職員研修会を次の通り開催した。

（医療安全管理委員会、医療安全対策委員会）

寿泉堂総合病院	24 回
寿泉堂香久山病院	12 回
寿泉堂クリニック	6 回

（医療安全管理研修会）

令和 2 年 4 月 2 日	令和 2 年度新採用者医療安全研修会（3 日）	32 名参加
4 月 3 日	令和 2 年度新採用者医療安全研修会	寿泉堂香久山病院 16 名参加
7 月 13 日	医療安全管理研修会（15 日、17 日、22 日、8 月 12 日、27 日） 「事例からの振り返り」	551 名参加
9 月 4 日	医療安全管理研修会（8 日、9 日、11 日、14 日、15 日、18 日、23 日、28 日、30 日） 「リスクマネジメント」	寿泉堂香久山病院 225 名参加
12 月 9 日	看護補助者研修会（23 日） 「医療安全の基礎知識」	50 名参加
令和 3 年 1 月 25 日	医療安全管理研修会（27 日、29 日、2 月 1 日、15 日、17 日、18 日、19 日） 「事例からの振り返り」	597 名参加
1 月 25 日	医療安全管理研修会（26 日、28 日、2 月 2 日、3 日、5 日、8 日、9 日、15 日、19 日） 「リスクマネジメント」	寿泉堂香久山病院 237 名参加

- (6) 院内感染の予防と拡大防止を目的とした院内感染対策委員会（平成 4 年 4 月制定）を 12 回開催し、職員研修会を次の通り開催した。

（感染対策研修会）

令和 2 年 4 月 2 日	新採用者感染対策室研修会（3 日）	32 名参加
6 月 30 日	抗菌薬適正使用に関する研修会（～7 月 27 日）Web 配信 「標準予防策 個人防護具 環境消毒 鼻咽頭ぬぐい液の検体採取について 厚生労働省抗微生物薬適正使用時の手引の理解に向けて」	551 名参加
7 月 3 日	感染対策研修会（7 日、8 日、14 日、17 日、20 日、22 日、27 日、29 日、31 日） 「標準予防策について」	寿泉堂香久山病院 245 名参加

10月26日	抗菌薬適正使用に関する研修会（28日～30日、11月2日） 「尿路感染症の診断と治療について」	573名参加
11月4日	感染対策研修会（5日、6日、9日、10日、17日、18日、 24日、26日、27日） 「手指衛生について」	寿泉堂香久山病院 242名参加
12月9日	看護補助者研修会（23日） 「新型コロナウイルス感染症について」	50名参加

- (7) 医療ガス（診療の用に供する酸素、窒素、各種麻酔ガス等）設備の安全管理を図り患者の安全を確保するため、医療ガス安全委員会及び医療ガス設備取扱講習会を次の通り開催した。

（委員会）

寿泉堂総合病院 令和3年3月9日

寿泉堂香久山病院 令和3年3月31日

寿泉堂クリニック 令和2年5月12日

（取扱講習会） COVID-19の影響により中止

- (8) 透析機器の安全管理を図り患者の安全を確保するため、透析機器安全委員会を次の通り開催した。

（委員会）

寿泉堂クリニック 令和2年4月28日

（医療機器取扱研修会）

寿泉堂クリニック

令和2年 8月27日	旭化成メディカル ヘモダイアフィルターABHについて	19名参加
11月27日	透析患者管理システム ニプロ製品について	11名参加

- (9) 防火避難訓練を次の通り実施した。

寿泉堂総合病院 COVID-19の影響により実施せず

寿泉堂香久山病院 令和2年 11月 20日 （総合訓練）

令和3年 3月 30日 （総合訓練）

寿泉堂クリニック 令和2年 5月 26日 （総合訓練）

7月 10日 （透析センター 福島県透析連絡会議主催  
MCA無線使用災害時情報伝達訓練参加）

9月 1日 （透析センター 日本透析医会主催 災害時  
情報伝達訓練参加）

9月 1日 （透析センター 福島県透析連絡会議主催  
MCA無線使用災害時情報伝達訓練参加）

12月 1日 （総合訓練）

附属さくら保育園

毎月第3木曜日

(10) 令和2年度の当法人並びに職員に対する外部団体からの表彰は、次の通りである。

令和2年 6月21日	日本看護協会 協会の発展に貢献 助産師 橋本ゆみ
10月14日	令和2年度健康ふくしま21推進県民表彰 優良助産師 和泉直美 優良看護師 羽賀貴子 優良栄養士 渋川美代子
10月31日	令和2年度福島県看護功労者表彰 優良看護師 高橋裕子 優良看護補助者 登那木とき子、安部洋子
11月11日	令和2年度郡山地区産業安全衛生大会 衛生優良管理者 藤田恵里子、緑川喜雄 衛生優良従業員 安齋達也、熊田美江
11月11日	令和2年度郡山地区産業安全衛生大会 郡山労働基準協会会長表彰 公益財団法人湯浅報恩会
令和3年 2月16日	令和2年度郡山公衆衛生大会 優良薬剤師 遠藤一江 優良看護師 田母神千春、遠藤幸恵、橋本恵美

## 10. 主要記事

令和2年	4月 1日	新入職員入社式並びに辞令交付式
	6月 27日	令和3年3月に卒業する看護学生を対象に「病院説明会」開催
	7月 20日	郡山市による介護保険法に基づく実地指導 (寿泉堂香久山居宅介護支援事業所)
	8月 20日	令和2年度永年勤続者表彰 40年勤続表彰 7名 30年勤続表彰 7名 20年勤続表彰 20名 10年勤続表彰 24名
	9月 24日	ISO統合サーベイランス(～25日) (寿泉堂香久山病院)
	9月 29日	郡山市による令和2年度認可外保育所施設立入調査 (附属さくら保育園)
	10月 3日	附属さくら保育園遠足(カルチャーパーク)
	12月 3日	キャンドルサービスを各病棟にて実施(4日、7日、10日、14日) (寿泉堂香久山病院)
	12月 17日	協会けんぽによる生活習慣病予防健診実地調査 (寿泉堂クリニック)
	12月 23日	附属さくら保育園クリスマス会開催(園児のみ)
令和3年	3月 19日	附属さくら保育園お別れ会開催(園児のみ)
	3月 25日	定年退職者特別表彰式開催
	3月 25日	令和2年度医師・歯科医師臨床研修修了式開催(寿泉堂総合病院)